優先度　継続取組

平成27年度施策評価シート

基本情報

	コード	名称	担当部署	コード	名称	連絡先
政策名等	33	中心市街地と各地域が連携した賑わいあるまちづくり		160700	産業振興部中心市街地推進課	0595-22-9825
施策	3301	中心市街地の魅力を発掘し、市内外へ発信する体制づくり	評価責任者・役職名		産業振興部　部長　尾登　誠	

再生の視点（何を、どうする）	・歴史や文化で培われてきた城下町である中心市街地の魅力を再認識するとともに、その魅力を市内外に発信します。それにより「住みたいまち」・「訪れたいまち」として中心市街地を再生し、再び賑わいを取り戻します。
施策の方向	城下町のたたずまいを取りもどし、城下町に残る伝統的な文化や技を守り育てることによって、中心市街地の魅力を高め、地域住民が主体となって事業に取り組む体制を強化し、その魅力を市内外に発信します。

指標

成果指標名	指標の説明	現状値（平成25年度）		平成26年度	平成27年度	平成28年度
歩行者・自転車通行量（人）	中心市街地内の6箇所で定点計測	3,964	目標	4,080	4,200	4,300
			実績	4,096		

改善・取組方向

	平成26年度	平成27年度
前年度の取組内容と残された課題	（平成25年度の取組内容と残された課題） 伊賀市中心市街地活性化基本計画に基づき事業を実施してきましたが、第1期の認定が、平成26年10月末で終了となります。第2期計画の策定については、公共施設の配置計画が未決定であるため、協議が開始できていません。	（平成26年度の取組内容と残された課題） 伊賀市庁舎場所について、上野市街地と周辺地域との繋がりの有る観光・交流拠点等とするため、「伊賀市の賑わい創出に向けて」と題して、支所単位で住民懇談会を開催しました。しかし、庁舎建物そのものの保存活用について決定していないため、利活用計画を進めることが出来ませんでした。 伊賀市中心市街地活性化基本計画の中で、伊賀市庁舎場所の利活用の計画が核事業であり、それが定めれなかったことで、認定を受ける手続きを進めることが出来ませんでした。今後、早急に利活用計画を策定し、人が集い、人が出会い、次世代の人材が生まれる仕組みづくりを重点に中活計画を策定する必要があります。
改善ポイントと具体的な取組	認定を受けた基本計画に記載された事業の実施について、㈱まちづくり伊賀上野と中心市街地活性化協議会等と連携して進捗管理を行います。また、1期計画の検証について協議し、2期計画の認定に向け、計画に盛り組むべき事業について検討します。	南庁舎を改修し利活用できるかについては、第3者委員会の結果を待つこととします。 その後、用途を想定した建設費の比較検討を行い、議会の理解が得られた後、南庁舎等の利活用計画を策定し、中活計画に盛り込み2期計画の認定を目指します。

（続紙）

施策	3301	中心市街地の魅力を発掘し、市内外へ発信する体制づくり

構成事務事業の重点化

No	26重点	27重点	事務事業名	事業概要	コストの方向	H26決算見込	H27予算
01	2	2	市街地整備推進事業費(01-08-04-02-371-51)	町家を残し、活用するために市所有の町家管理、町家活用業務の委託等を行う。（中心市街地推進課）	↓	9,482	5,759
02	1	1	中心市街地活性化事業(01-08-04-02-371-54)	第1期中心市街地活性化基本計画の進行管理及び事後評価、第2期計画の策定及び認定に向けた検討を行う。	↑	2,235	2,357
構成事務事業　合計						11,717	8,116

優先度　継続取組

平成27年度施策評価シート

基本情報

	コード	名称	担当部署	コード	名称	連絡先
政策名等	33	中心市街地と各地域が連携した賑わいあるまちづくり		160700	産業振興部中心市街地推進課	0595-22-9825
施策	3302	商業・文化の交流拠点となる中心市街地の再生	評価責任者・役職名		産業振興部　部長　尾登　誠	

再生の視点（何を、どうする）	・中心市街地に集積されている商業機能や文化・交流等の核施設となる「ハイトピア伊賀」を活用し、地域住民や各団体の活動拠点とするほか、各地域における情報や魅力発信の拠点として、周辺の地域と連携・交流を図り、観光客の誘客にもつなげます。
施策の方向	豊かな自然環境を活かして周辺地域で生産した地場産品を伊賀発ブランドとして中心市街地で販売するほか、「ハイトピア伊賀」での公民館活動を中心とした周辺地域との文化交流を推進します。

指標

成果指標名	指標の説明	現状値（平成25年度）		平成26年度	平成27年度	平成28年度
小売年間販売額（百万円）	商業活性化重点軸（上野市駅前及び本町通周辺）の小売年間販売額	2,420	目標	2,430	2,440	2,460
			実績	2,513		

改善・取組方向

	平成26年度	平成27年度
前年度の取組内容と残された課題	（平成25年度の取組内容と残された課題） 平成26年3月から毎月第2日曜日、駅前広場にて㈱まちづくり伊賀上野及びダーコラボラトリLLP共催で伊賀風土FOODマーケットを実施しました。継続実施が課題です。	（平成26年度の取組内容と残された課題） 駅前広場にて㈱まちづくり伊賀上野及びダーコラボラトリLLP共催で伊賀風土FOODマーケットを継続して実施しました。 また、周辺農村部と市街地を結ぶ取り組みとして、朝市を毎月第1土曜日に開催しました。（商工会議所との連携事業） より一層まちづくりに関わっていく人を多くつくり、伊賀の資源の魅力を引き続き発信することが重要であり、継続実施が課題です。交流人口増のためのイベントで終わるのではなく、定住人口や地域経済循環につなげることが課題です。
改善ポイントと具体的な取組	毎月開催することで、伊賀の資源の魅力をいっそう発信します。また、マーケットに出展することで新たな顧客層を取り込み、店舗の売り上げ増につなげていきます。	㈱まちづくり伊賀上野や商工会議所と連携し、引き続き、毎月伊賀風土FOODマーケットや朝市を開催します。また、駅前広場だけの開催ではなく、周辺の商店街や空き店舗での魅力発信を同日にすることでまちなかへ波及させます。 中心市街地の魅力要素だけでなく、周辺地域にしかない魅力要素との相乗効果を考えた取り組みを進めることにより、市全域への活性化へと波及させます。

（続紙）

施策	3302	商業・文化の交流拠点となる中心市街地の再生

構成事務事業の重点化

No	26重点	27重点	事務事業名	事業概要	コストの方向	H26決算見込	H27予算
01	1	1	街なみ環境整備事業(01-08-04-02-371-52)	行政と市民が協働で策定した街なみ環境整備事業計画に基づき、道路美装化、公園整備等の住環境整備を図る。（中心市街地推進課）	↑	94,693	163,077
構成事務事業　合計						94,693	163,077

優先度　継続取組

平成27年度施策評価シート

基本情報

	コード	名称	担当部署	コード	名称	連絡先
政策名等	33	中心市街地と各地域が連携した賑わいあるまちづくり		160500	産業振興部商工労働課	0595-22-9669
施策	3303	個店の機能強化と商店街機能の充実	評価責任者・役職名		産業振興部　部長　尾登　誠	

再生の視点（何を、どうする）	・商店街等による地域コミュニティの中心性や商店主の意欲を高めるための取り組みを推進します。 ・地域内外からの集客・賑わいにつながる魅力ある店舗、商店街等の創出を支援し、商業の活性化を促進します。
施策の方向	中心市街地に点在する空き家・空き店舗等を活用し、魅力ある集客施設を開業する事業者や市内外からの新たな起業者を支援するとともに、継続的な集客と賑わいを創出するための商店街活動を支援することにより、商店街機能の充実に取り組みます。 また、各個店、商店街、地元住民が一体となって進める楽市・楽座のイベントの継続的な開催により、商業活動の促進を図ります。

指標

成果指標名	指標の説明	現状値（平成25年度）		平成26年度	平成27年度	平成28年度
商店街等の空き店舗の減少	商店街等の賑わい創出の結果、商業が活性化し、空き店舗が減少する割合で、現状値を100とした場合の減少率（%）	100.0	目標	97.0	94.0	90.0
			実績	97.0		

改善・取組方向

	平成26年度	平成27年度
前年度の取組内容と残された課題	（平成25年度の取組内容と残された課題） 中心市街地の商業の活性化を図るため、商店街等が実施する事業に対し支援を行いました。 中心市街地のみならず、各地域にも効果が波及できる仕組みづくりが必要です。	（平成26年度の取組内容と残された課題） 中心市街地における商業の活性化を図るため、空き店舗対策並びに商店街等が実施する事業に対する支援を前年度に引き続き実施しました。 併せて、魅力ある個店づくりに対する支援を実施することで、個店機能の強化を図りました。 これまで、中心市街地における商業活性化対策として、「商店街機能の充実」と「空き店舗対策」を軸として実施してきましたが、賑わい再生には至っていません。 賑わいを創出するためには、客を引き寄せる魅力ある個店が求められることから、今後は、「商店街機能の充実」、「空き店舗対策」に加え、「魅力ある個店づくり対策（空き店舗改装補助・家賃補助に加え既存店舗の改装補助、町の拠点となる位置で空家を確保し、起業者を支援など）」の3つの方策により、商業の活性化を図っていきます。 また、補助事業については、事業検証を実施していくため、補助事業者に対し、原則成果指標（数値目標）を求めていくこととします。
改善ポイントと具体的な取組	より波及効果の高いものとするため、要綱等の見直しを実施します。	要綱を見直し、助成制度を充実することにより、個店の魅力アップを図ります。また、中心市街地だけでなく、地域拠点等の店舗の充実を図ることにより、地域連携を強化します。

（続紙）

施策	3303	個店の機能強化と商店街機能の充実

構成事務事業の重点化

No	26重点	27重点	事務事業名	事業概要	コストの方向	H26決算見込	H27予算
01	1	1	中心市街地等商店街活性化事業(01-07-01-02-332-51)	各商店街等が実施するにぎわい創出事業に対する補助を行う。	↓	8,062	2,315
02		2	商工振興経費(01-07-01-02-329-51)	個店魅力創出事業(平成26年度補正予算　地域住民生活等緊急支援のための交付金事業(地方創生先行型))	新規	0	6,800
03		3	商工振興経費(01-07-01-02-329-51)	プレミアム付商品券発行事業(平成26年度補正予算　地域住民生活等緊急支援のための交付金事業(地域消費喚起・生活支援型))	新規	0	131,300
構成事務事業　合計						8,062	140,415